

ATLIA
Kawaguchi Art Gallery

川口市立アートギャラリー・アトリア

年報 Annual Report

令和4(2022)年度 事業年報

2022.4-2023.3

目次

基本理念	p.2
沿革	p.3
令和4年度 事業一覧	p.4
特別展	p.5
新春企画展 アートな年賀状展 2023	p.7
ワークショップおよび成果展示	p.8-p.10
たのしい実技講座／やさしい鑑賞講座／アートさんぽ	p.11-p.14
地域連携・共催展	p.15-p.17
アトリア・サポートスタッフ	p.18
各種研修・実習などへの協力	p.19
貸しギャラリー事業	p.20
令和4年度事業件数・利用者数一覧	p.21-p.22
発行物	p.23
利用案内／スタッフ	p.24

基本理念

アトリアがめざすこと

川口市立アートギャラリー・アトリアは2006（平成18）年4月にオープンした小さなアート施設です。現代アートの展覧会や地域に根ざした事業を展開し、市民が新しい表現に出会い多様な価値観を共有する場を目指しています。

アトリアの活動には5つの大きな柱があります。「企画展・アートウォッチング」「ワークショップ・アートさんぼ」「講座（たのしい実技講座、やさしい鑑賞講座）」「連携事業（地域連携、学校連携）」「貸しギャラリー事業」。これら5つの柱をゆるやかに結びながら、ものづくりのまち川口におけるアート活動の拠点として、様々な垣根を超えてアートの根をひろげます。

企画展 アートウォッチング

現代アートやデザインをはじめ、地域に根ざした企画展を開催しています。アートが内包する多様な価値観を提示すると同時に地域資源をアートの視点から見直すことを試んでいます。また新鋭作家のための公募展や参加型の企画も行っています。アートウォッチングはアートを能動的に見るための様々な活動を通じて鑑賞の新しい可能性を探るプログラムです。

ワークショップ アートさんぼ

子どもから大人まで楽しめる様々な企画を実施しています。造形だけでなく身体表現や鑑賞、まち歩きなども組み合わせたオリジナルのプログラムです。講師はそれぞれの分野で活躍するアーティストや専門家が行います。

たのしい実技講座 やさしい鑑賞講座

たのしい実技講座では初心者の方から次のステップを目指す方まで気軽にもものづくりを学び作品制作をすることができます。やさしい鑑賞講座は研究者や専門家を講師に招きアートや文化について「観る・知る・深める」ための講座です。

連携事業（地域連携・学校連携）

地域のアートスポットの情報発信に協力するほか、連携してイベントや展覧会などを実施しています。また学校との連携を図りながら授業での取り組みや各種コンクールの優秀作品などの展示も行っています。

施設とその成り立ち

1925（大正14）年の創業以来、約80年にわたり市民に親しまれてきたサッポロビール埼玉工場が2003（平成15）年に閉鎖されました。

この工場跡地にリボンシティが生まれ、「まち歩きが楽しい新しい都市空間の実現」を開発方針として、大型ショッピングセンターや住宅街区のほか、アートパーク（並木元町公園）などが建設されました。

緑の木々や芝生などを有するこの公園内にサッポロビール株式会社から建物の寄贈を受け、川口市立アートギャラリー・アトリアが誕生しました。ひろく張り出したウッドデッキを持つ、集成材を利用した木構造の平屋づくり（一部2階建て）の施設は、人とアートが自然のひろがりのなかでふれあうよう設計されました。

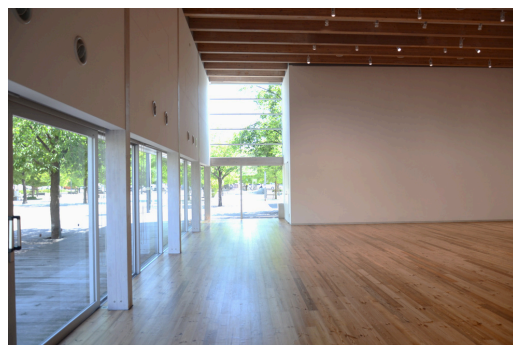
サッポロビール工場の土台を支えた松杭がギャラリーの床材として再利用されています。

名前の由来

「アトリア」とは、アート、アトリエ、リリア（※）に由来する造語であり、施設がアート活動を通じた市民の憩いの場となるようにとの願いが込められたものです。

2005（平成17）年8月に名称を募集し、全国46都道府県から寄せられた1649通（市内からは799通）の応募のなかから厳正な審査の結果「アトリア」が愛称として採用されました。

※川口総合文化センターの名称「リリア」を指します。



令和4年度 事業一覧

- = 企画展覧会
- = ワークショップ
- = アートさんぽ
- = 地域・学校連携事業
- = たのしい実技講座
- = 特別展
- = やさしい鑑賞講座

月	事業内容	貸しギャラリー	
4月	● あるいて描く・絵のなかをあぐる (4月16日・17日)		
	● さわる・つくる・みあげる おおきな「雲」(4月23日・24日)		
	■ ワークショップ成果展示 (4月27日～5月8日)		
5月	● 箸を学ぶ-国際学会訪問 (5月3日)		
6月	■ 川口市寄贈作品展「森啓介の描く風景」(6月4日～19日)		
	■ 第17回 川口市美術家協会選抜展 (6月22日～7月3日)		
7月	■ 川口市小・中・高校硬筆展覧会 (7月6日～10日)		
9月	■ 第30回 水道ポスターコンクール入賞作品展示会 (9月7日～19日)	展示室A	大川直人40周年 写真展「GOOD TIME MUSIC」(9月21日～25日)
	● 「路上観察」超入門 第1回「マンホール鑑賞」(9月10日)	展示室B	第3回型染展 (9月21日～25日)
	● 「路上観察」超入門 第2回「歴史から未来」(9月17日)	スタジオ	第33回川口市工芸展 (9月21日～25日)
		全館	三叉景 (9月27日～10月2日)
10月	■ 川口市寄贈作品展第五弾「川口のアート、再発見。」展 (10月29日～11月13日)	展示室A・B	さいたま剪画美術展 (10月5日～10日)
		スタジオ	ラッキーワイド 造形の世界2022 (10月4日～10日)
		展示室A	川口陶芸クラブ作品展 (10月12日～16日)
		展示室B	貼り絵アート「Loosen up a Little!」(10月12日～16日)
		スタジオ	緑と文化の創造展 (10月13日～16日)
		展示室A・B	第57回川口市小学生図画コンクール入賞作品展 (10月18日～23日)
11月		スタジオ	Fusion (11月20日)
		展示室A	11人展～ チャイナペインティング作品展 (11月23日～26日)
		展示室B	亀井政子個展 (油絵) (11月22日～27日)
		スタジオ	石粉粘土作品展「花と器あそび」(11月23日～27日)
		展示室A	デジタルペインティング「夢」作品展 (11月29日～12月4日)
		スタジオ	Catウールアート猫展&黄色い猫とらの写真展 (11月29日～12月4日)
12月	■ 第57川口市特別支援学級合同作品展 (12月7日～11日)	展示室A・B	第17回小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会 (12月13日～18日)
	● 「親子でつくろう! ココロほっこり雪だるま」(12月17日・18日)		
	■ 川口の美術家たちのアートな毎日 (12月21日～25日)		
1月	■ 新春企画展 アートな年賀状展2023 (1月7日～22日)		
	● 透明な絵の具を使って生命力を描こう (1月14日)		
	● 身近なものでリトグラフ体験 (1月21日・22日)		
	■ 中学生のART CLUB展 (1月28日～2月5日)		
2月	■ 川口市小・中・高校書きぞめ展覧会 (2月9日～12日)		
	■ 川口の図工美術まなび展 (2月18日～26日)		
3月	■ 川口まちこぼし芸術祭2023 (3月8日～12日)		

※2022年4月1日～2023年3月31日時点の事業を一覧にしています。表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した事業です。

■ 特別展

川口市寄贈作品展川口市寄贈作品展

森 敬介の描く風景

会 期：6月4日(土)～19日(日)

観覧料：無料

概 要：

川口市に寄贈された作品を中心に紹介する
展覧会の第四弾。本展覧会は、川口の鋳物産
業を支えた経営者として経済界への多大な貢
献に加え、洋画家としても活躍されている
森敬介氏の作品23点を中心に展示しました。

画家としての氏は、油絵については我が国
屈指の歴史を誇る美術団体の一水会で常任委
員に名を連ね、安井曾太郎奨励賞の受賞をは
じめ、埼玉県美術展での特選受賞、日展入選
など華々しく活躍する一方で、「埼玉一水会の
人々展」代表や川口市美術展の審査員を第1
回から現在まで務めるなど、後進の指導にも
熱心に取り組まれています。

装飾鋳物の考察のため旅をしたフランスな
どでの風景・人との出会いを優しくほっとす
る色使いの絵画で紹介しました。また、それ
ぞれの絵画には現地で氏が思ったことをコメ
ントとして添えられており、そのユニークな
内容も鑑賞者からは好評でした。

本展覧会では、氏の作品以外にも、氏が所
属する一水会の5名の先生方のご協力により先
生方の素晴らしい作品5点もあわせて紹介させ
ていただきました。

また、氏が会長を務める「株式会社モリチ
ュウ」の全面的な協力により川口の鋳物産
業を支えてきた老舗企業の歴史や製品を紹介し
た川口らしい展覧会となりました。



■ 特別展

川口市寄贈作品展第五弾

～川口のアート、再発見。～

会 期：10月29日(土)～11月13日(日)

観覧料：無料

概 要：

川口市に寄贈された作品を中心に紹介する
展覧会の第五弾。本展覧会では、ものづくり
のまち川口に所縁のある気鋭の彫刻家二人に
スポットを当てて作品を紹介しました。

青木邦真氏は、ブロンズ彫刻家の富田匠美
氏を祖父に持ち、叔父で石彫家の富田眞平氏
など、川口にあつて親類に彫刻家や油彩画家
が多くいるという、特異な環境で生まれ育ち
ました。青木氏の作品は、具体的な「何か」
ではありませんが、土を用いたどこか懐かし
さを覚えるような歴史的ロマンと、精緻な緊
張感が同居し、観るものに不思議な親密性
を感じさせます。

中村隆氏は「幼少期から鉄が身近な存在で
あった」と語っています。それは機械工の父
親が仕事場に良く連れて行ってくれたこと
に加え、本人も数年間鉄工場に勤め、機械削り
や金槌成型、ヤスリ掛け等の技を磨いていま
す。中村氏の作風は、精緻ながらもシャープ
かつ豪放。工芸家としての出自のなせる業か
と思われます。

観覧者の皆様に、改めて川口市に所縁のあ
るアーティストを再認識してもらう良い機会
となりました。



新春企画展

アートな年賀状展2023

会 期：1月7日(土)～22日(日)

観覧料：無料

概 要：

応募者から届いたすべての賀状を一堂に展示する展覧会。誰もが気軽に出品できることを重要視して開催している本展は16回目となりました。市内を中心に全国各地から送られてきた596通もの作品は、当ギャラリーのスタッフとサポートスタッフの協働により、手作業で丁寧に展示されました。

出品者からは毎年の出品を楽しみにしているコメントや、鑑賞者からは楽しい時間を過ごせた、自分も年賀状を描きたくなったなどの声がアンケートから読み取れ、展覧会に多くの人々が気持ちを寄せてくれたことが実感されました。

担当スタッフ／茂木阿季
グラフィックデザイン／芝崎曜子



■ ワークショップ

造形だけでなく身体表現や鑑賞活動などを組みあわせたオリジナルのプログラムを第一線で活躍するアーティストとともに実施しています。大型の制作物を中心に制作物を展示する成果発表展も不定期で行っています。

あるいて描く／絵のなかをあるく

日時：①4月16日(土) 13:00～15:30

②4月17日(日) 10:30～13:00

参加費：1,000円(1組)

参加者：年中～2年生+保護者のペア

①5組(10人)②4組(8人)

講師：船井美佐(美術家)

1974年京都府生まれ。鏡をつかって平面作品を空間へひろげていく試みや鑑賞者が内部に入りこめるインスタレーションなどを発表。近年は幼児を対象としたワークショップを中心に教育的プログラムを開発するなど活動の幅をひろげている。



概要：

5mもの長さの紙と絵具を材料にしたワークショップでは、大人と子どもの協働制作を行いました。筆やローラーを大胆に動かすほか、手足で直接絵具をとってそのままスタンプ・歩くなどの手段で全身をつかって制作に臨む体験を重視しました。はじめての来館だった参加者も多くいましたが、講師が3原色の絵具を渡し自由な制作を促すと、混色で思わぬ色が生まれる様子や絵具の触感のおもしろさに緊張がほぐれ、各組のペースで制作に取り組む様子が見られました。

各々が好きな作業を見つけながら仕上げ、まとめの鑑賞会では、限られた材料・道具でも無限の表現が生まれることが実感されました。手足の動きがそのまま表れた作品は、からだよりも大きく仕上がっています。



■ ワークショップ

さわる・つくる・みあげる おおきな「雲」

日 時：①4月23日(土) ②4月24日(日)

各回13:30～16:30

参加費：500円(1人)

参加者：小学1～6年生 ①9人②8人

講 師：水内貴英（美術家）

1979年岡山県生まれ。インスタレーション・パフォーマンス・彫刻など、状況にあわせて様々な手法を用い、アートが生み出す新たな視点を社会に提示する作品を展開。近年は、プロジェクトワーク、ワークショップなどを中心に作品を発表。長期にわたって継続的に行われるものも少なくない。

概 要：

講師が用意したビニールを風船状に膨らませた巨大な雲型のオブジェに、物語のつづきを想像して装飾・改変させるワークショップ。参加者は導入で、講師のオリジナルの物語「雲の中には」を聞き、イメージを膨らませてから、紙やテープ・マジック・セロファン等の身近な素材を使用して取り組みます。

初めは自由な制作にとまどっていた参加者も、「思いつかなかったりつくることに飽きたりしたら、無理につくらなくてもいい。雲をぼんやり見てほしい」という講師の導きが、各自のペースで作品を生み出すきっかけとなり、時間や技術を気にすることなく、自分だけの物語づくりに没頭できました。

雲の面白い触感や見上げながらのいつもと違う視点は、より創造力を刺激する制作となりました。



春のワークショップ成果展示

会 期：4月27日(水)～5月8日(日)

観覧料：無料

概 要：

2件のワークショップで完成した作品をそれぞれの講師の設えによって展示しました。4月16日・17日に開催した「あるいて描く／絵のなかをあるく」でできた大きな絵は、講師の船井美佐氏の作品とともに公開され、ひろがりある空間を生み出しました。

さらに4月22日・23日開催したワークショップ「さわる・つくる・みあげる おおきな「雲」」で生まれた巨大な雲形のオブジェは、講師の水内貴英氏と小学生とのコラボレーション作品です。空間のなかにふわふわと浮かぶ作品は、展覧会にゆったりとした時間をもたらしました。

担当スタッフ／秋田美緒・柴澤希



■ ワークショップ

親子で作ろう！ココロほっこり雪だるま

日 時：①12月17日(土)

②12月18日(日)

各回13:00～15:00

参加費：1,000円（1組）

参加者：年中～2年生＋保護者のペア

①5組(10人)②4組(8人)

講 師：玉掛由美子

1970年生まれ。

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒。

デザイン事務所に勤務後、フリーのグラフィックデザイナーとして活動。

心療内科でのグループアートワークセラピー・小学校でのワークショップなどの活動を経て、現在、市内幼稚園や自宅にて教室を、映像・情報メディアセンターメディアセブンにて「子育て中のママのためのアトリエ」を開催。



概 要：

雪に見立てた綿で雪だるまをつくる、クリスマスをテーマにした親子協働ワークショップ。はじめに大きな綿をちぎったり広げて包まったりと思い思いに遊びました。緊張がほぐれたところで、暗転した会場にサンタクロースが現れ、プレゼント袋が配られるところをワクワクしながら息をひそめて見守ります。

袋の中には雪だるまを彩る白い毛糸・カラフルなモールやフェルト玉などが。丸めた綿に毛糸を巻きつけ雪だるまをつくり、他の材料を思い思いに取り付けました。個性豊かな雪だるまがあらわれました。

■ ワークショップ

透明な絵の具を使って生命力を描こう

日 時： 1月14日(土)

①10:00～13:00 ②14:00～17:00

参加費：500円（1人）

参加者：小学生 ①10人 ②9人

講 師：林友深

東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻

（日比野克彦研究室所属）修士課程修了。

2013年11月より常陸太田アーティスト・イン・レジデンスに参加。

2016年4月より東京にて美術講師と創作活動を開始。

概 要：

カラフルな透ける絵具「グラスデコ」で描くワークショップ。はじめに白い紙に思い思いの線を自由に描きます。ウォーミングアップができたなら、いよいよ透明絵の具の登場。透明なB3サイズのシートに、グラスデコで勢いよく色を載せます。透透ける絵具同士なので重なるとどんどん不思議な色が出てきます。

テーマの生命力のとおり、それぞれが勢いのある作品ができました。成果物は窓ガラスに展示し、日光で透かされると、置いていた時とは違った表情が見えました。



身近なものでリトグラフ体験

日 時：①1月21日(土)

②1月22日(日)

各回13:30～16:30

参加費：500円(1人)

参加者：中学生以上 ①5人 ②8人

講 師：中村真理

埼玉県出身。

2015武蔵野美術大学大学院修士課程造形研究科

版画コース修了。

一般社団法人 日本版画協会会員。

概 要：

キッチンにある身近のものを使い版画の一種であるリトグラフの原理を体験する講座。水と油の反発作用を利用して、彫らずに描く版画作品を制作しました。参加者は自身が用意した下絵を、版になるアルミホイルにトレーシングペーパーで転写します。写した線を元にチョコレートやサラダ油で描画し、コーラに浸して水で流すと描いた絵がアルミホイルに定着します。ローラーでインクを乗せ、クラフト紙にのせバランでこすり版画を制作しました。

他の版画と同様に一度描いたものを消すことが出来ない不自由さに、苦戦しながらも楽しむ制作となりました。



「路上観察」超入門

第1回 マンホール鑑賞

第2回 歴史から未来

日 時：第1回 9月10日(土)

14:00～16:00

第2回 9月17日(土)

13:30～16:30

参加費：各回300円(1人)

参加者：中学生以上

第1回(16人)、第2回(29人)

講 師：

第1回、第2回

白浜公平（マンホール蓋鑑賞家）

マンホール鉄蓋をこよなく愛し、収集も行う。

全国のマンホールの辞書的存在を目指し、その多彩さを紹介するブログや古い蓋を集めた路上文化遺産データベース(Wiki)を運営している。愛好家たちやメディアの注目を集め、多くのTV番組に出演、まち歩きイベントも精力的に行っている。

第2回 石井公二（片手袋研究家）

片方だけの手袋、通称『片手袋』にまつわるあらゆる事象の研究に取り組んでいる。原稿執筆やメディア出演等を通じ片手袋の魅力を発信しながら、都市や人間の生活についても考察し続けている。研究の集大成『片手袋研究入門』を2019年、実業之日本社より刊行。

第2回 三土たつお（「街角図鑑」著者）

ライター、都市鑑賞者。デイリーポータルZに連載中。三角コーンやガードレールなど、街角にあるものをできる限り知りたいと思っている。好きな段差スロープはミスギ「セフティ・スロープ」（ゴムチップ製）。

編著に『街角図鑑』（実業之日本社）がある。

概 要：

身の回りのあらゆるモノゴトをあるがままに観察し、おもしろさを見出す「路上観察」を主題とし、2週にわたって取りあげた連続講座。

第1回は「マンホール鑑賞」をテーマに、講師の白浜氏より、川口のマンホールから始まるマンホール蓋の歴史・楽しみ方について、路上観察に触れながらお話しいただきました。

第2回は「歴史から未来」をテーマにし、講師には第1回に引き続き白浜氏と関連分野に精通する石井氏・三土氏・村上氏の4名の専門家を迎え、路上観察の過去・現在・未来を多角的に座談会形式でたどりましました。何気なく暮らしている日常のなか、新しい視点で街歩きの楽しみを知る機会となりました。



箸を学ぶー国際箸学会訪問

日 時：5月3日(火祝) 13:30~16:00

参加費：500円(1人)

参加者：18歳以上 6人

講 師：鈴木道こ（国際箸学会）

東京・早稲田生まれ。国際箸学会箸講師・理事、日本箸文化協会認定講師、JFAA認定日本箸文化教育講師・学術委員。多国籍料理の創作指導をすることで日本の食と箸の関係を知り、箸を通して和のこころを伝えていくことに携わる。



概 要：

箸文化の研究・普及を行っている「国際箸学会」を訪問しました。今回は市内で精力的に活動している国際箸学会の会館に訪れ、学会の活動内容と箸の文化・歴史について講義を受け、簡易な箸づくり（切り出し・絵付け）を参加者に体験してもらおう。

多国籍な住民に注目が集まる場所であることを踏まえつつ、建築・空間的な視点で昭和の団地建築の面白さを見出すことが目的。

参加者はイベントを通じて講師2名の異なる専門性から、芝園団地ならではの魅力を多角的に捉えることができました。

■ 地域・学校連携（共催）事業

第17回川口市美術家協会選抜展

会期：6月22日(水)～7月3日(日)

主催：川口市美術家協会



概要：

川口市美術家協会の各部門から選抜された会員の秀作展です。日本画8点、洋画32点、彫刻9点、工芸20点、書26点、写真11点（合計106点）の展示を行いました。

令和4年度(第30回)

水道ポスターコンクール入賞作品展

会期：9月7日(水)～19日(月祝)

主催：川口市上下水道局



概要：

小学4年生を対象に、水道への理解と学習の機会をひろげるために毎年開催。今年は22校1,575点の力作が集まり、入賞・佳作の62点が展示されました。

第57回川口市特別支援学級合同作品展

会期：12月7日(水)～12月11日(日)

主催：川口市教育委員会



概要：

市内小学校34校、中学校15校の特別支援学級の児童生徒が制作した絵画や手芸などを展示しました。

川口の美術家たちのアートな毎日

会期：12月21日(水)～12月25日(日)

主催：川口市美術家協会



概要：

川口の美術家たちが、普段市展や協会選抜展に出品している作品とは一味違った絵画や立体作品・書など57点を展示しました。

■ 地域・学校連携（共催）事業

中学生の ART CLUB 展

会 期：1月28日(土)～2月5日(日)

主 催：川口市教育委員会



概 要：

市内中学校12校の美術部およびそれに類似する部活動の発表展示。日頃から取り組んでいるイラストレーションやポスターだけでなく、本展にむけての共同制作なども公開しました。

川口市小・中・高校書きぞめ展覧会

会 期：2月9日(木)～12日(日)

主 催：川口市教育研究会 書写研究部



概 要：

川口市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興を図るために毎年開催。各校の優秀作品ならびに県展覧会出展・入選作品を一室に展示しました。

川口の図工美術まなび展

会 期：2月18日(土)～26日(日)

主 催：川口市教育委員会



概 要：

学年末の発表会として、川口市立小・中・高校における図工・美術での授業の成果を展示し、さらに各種コンクールなどで受賞した作品を紹介しました。

川口まちこうば芸術祭2023

会 期：3月8日(水)～12日(日)

主 催：川口商工会議所



概 要：

川口の町工場の技術とトップクリエイターから学生まで幅広くコラボレーションし、暮らしに豊かさを与える魅力的な製品や作品を展示する共同企画。

■ 地域・学校連携（共催）事業

金属のプロの高い技術力よる変幻自在に形を変え、暖かな製品の数々。石田和人氏をはじめとしたデザイナー・アーティストと市内町工場5社による作品、共立女子大学生による「和」をテーマにした作品展示のほか、オリジナルのキーホルダーをつくるワークショップを開催しました。

アトリア・サポートスタッフ (アートボランティア登録制度)

年間を通して多くの事業を開催する当ギャラリーでは、それを支えてくださるボランティアの方々が活動しています。ワークショップや講座の参加者に寄り添い一緒に創作活動に参加したり、スタッフとのミーティングを重ねながらイベントの発案・準備制作・実施運営を担ったりなど、お手伝いにとどまらない主体的な活動を目指しています。

登録は4～5月に行い、活動期間を1年としています（更新可／中学生以上）。幅広い年齢層・職業の方がアートを通じて交流し、様々な体験とかけがえのない時間を共有しています。

主な活動内容

ワークショップや講座の運営サポート

ワークショップでは参加者に寄り添いながらそれぞれの楽しみを見つけるサポートを行います。技術や知識は重要ではありません。自身も楽しみながら参加をすることで感動を発見し、満足感につながる時間・空間の共有を目指します。

また実技講座等では、参加者に積極的に声をかけて実現したい表現を引き出すなど、交流を大切にしながら制作のためのサポートを行います。主体的に企画を提案し運営にかかわることもあります。

展覧会の作品や展示に関わるサポート

主に〈アートな年賀状展〉など市民参加展示では設営や片づけなどの展覧会の裏側にかかわっていただきます。さらに、企画展の出品アーティストが行う取材・制作への協力をお願いすることもあります。



定例会

月に1度程度のペースで活動の内容や方針について話し合う場を設けています。スタッフとやりとりしながらこれまでに気づいたこと・これからやってみたいことを共有し、利用者の目線に立ったより良い施設運営へとつなげます。自分の興味や特技を生かして活動しているメンバーが寄り集まり、意見交換と提案をする機会です。

令和4年度登録者数

15人（令和5年3月時点）

各種研修・実習などへの協力

川口市が推進している市内中学生の社会体験事業「きらり川口夢わ〜く」を中心に、中・高・大学生の職場体験およびインターンシップ事業、各種教員研修などの受け入れを行っています。

※コロナ禍により各事業中止

貸しギャラリー事業

市民をはじめとした一般の方々にアート活動や作品発表の場としてご利用いただくため、館内の展示室およびスタジオをお貸出ししています。本年度は展覧会などで15件ご利用いただきました。

※展覧会の一覧はP.22をご参照ください。

展示空間について

■展示室 Exhibition Space

どなたでも気軽に立ち寄れる企画展示や市民のアート作品発表の場です。ゆったりとした空間（天井高5m）で作品発表や鑑賞を楽しむことができます。可動壁により2室に分けられ、小品から大型作品まで様々な展示が可能です。

■スタジオ Studio

ワークショップや講座など様々な美術活動を行う場所です。屋外との一体感があるこの空間は創作活動の幅を大きくひろげます。

■ホワイエ / ウッドデッキ

Foyer / Wood Deck

アートパークの景観と喫茶を楽しみながら休憩できる場所です。また、ウッドデッキはワークショップなどの活動の場にもなります。

フロアマップ

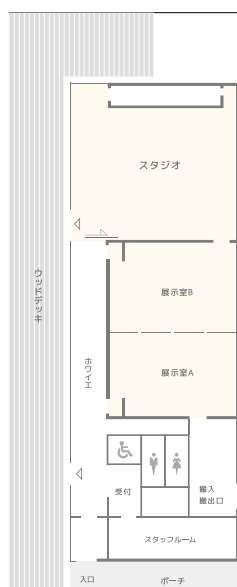
展示室A	77.5㎡／壁面の長さ 計29.1m
展示室B	77.5㎡／壁面の長さ 計29.1m
スタジオ	195㎡／壁面の長さ 計21.2m
ピクチャーレールの高さ	展示室3.5m、その他4.8m

利用料金

	市内在住・在勤・在学	左記以外
展示室A	10,470円	15,700円
展示室B	10,470円	15,700円
スタジオ	20,900円	31,400円

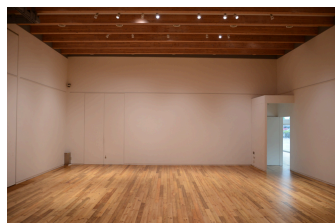
※料金は1日あたり

※貸出は展示室は1週間ごと、スタジオは1日ごと



利用申込

申込は空きがある場合、利用期日の1年前から募集を受付しています。専用の「貸しギャラリー申込書」に必要事項を記入のうえ当ギャラリーへ持参してください。郵送・FAXでも受付しています。申込書は、当ギャラリーの受付で配布するほか公式ホームページからダウンロードできます。



令和4年度 実施事業件数・利用者数一覧 企画展 / 特別展 / 地域・教育機関連携

事業名（企画展）	開催日数（日）	鑑賞者数（人）
ワークショップ成果展示 〈「あるいて描く・絵のなかをあるく」「さわる・つくる・みあげる おおきな「雲」〉	11	283
新春企画展 アートな年賀状展2023	14	1,550
小計	25	1,833
事業名（特別展）	開催日数（日）	鑑賞者数（人）
川口市寄贈作品展 「森 啓介の描く風景」	14	1,792
川口市寄贈作品展 第五弾 「川口のアート、再発見。」展	14	801
小計	28	2,593
事業名（地域・教育機関連携）	開催日数（日）	鑑賞者数（人）
第17回 川口市美術家協会選抜展	11	805
川口市小・中・高校硬筆展覧会（中止）	—	—
令和4年度（第30回）水道ポスターコンクール入賞作品展	12	270
第57回川口市特別支援学級児童生徒合同作品展	5	1,841
川口の美術家たちのアートな毎日	5	382
中学生のART CLUB 展	8	841
川口市小・中・高校書きぞめ展覧会	4	4,815
川口の図工美術まなび展	8	1,644
川口まちこうば芸術祭2023	5	2,448
小計	58	13,046
合計	111	17,472

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

事業分野	件数	開催日数（日）	参加者数（人）
ワークショップ	4	7	74
たのしい実技講座	1	2	13
やさしい鑑賞講座	2	2	45
アートさんぽ	1	1	6
合計	8	12	138

※2022年4月1日～2023年3月31日に実施した事業を集計しています。

令和4年度 実施事業件数・利用者数一覧 貸しギャラリー利用

展覧会名	展示室区分	利用日数（日）	鑑賞者数（人）
Landscape	展示室A・B・スタジオ	6	381
四人展	展示室B	6	220
voice・2	スタジオ	2	117
金沢寿美 作品制作(非公開)	スタジオ	6	6
大川直人40周年写真展「GOOD TIME MUSIC」	展示室A	5	98
第3回型染展／高松悦子	展示室B	5	101
第33回川口市工芸展／川口市工芸会（中止）	スタジオ	—	—
三叉景	展示室A・B・スタジオ	6	250
ラッキーワイド造形の世界2022	スタジオ	7	492
さいたま剪画美術展	展示室A・B	7	518
川口陶芸クラブ作品展	展示室A	5	371
貼り絵アート「Loosen up a Little!」	展示室B	5	307
緑と文化の創造展	スタジオ	5	446
Fusion	スタジオ	1	71
亀井政子個展（油絵）	展示室B	6	303
11人展～チャイナペインティング作品展	展示室A	6	211
石粉粘土作品展「花と器あそび」	スタジオ	6	403
デジタルペインティング「夢」作品展	展示室A	6	327
Catウールアート猫展&黄色い猫ととらの写真展	スタジオ	6	346
第17回小学生「身近な生き物」絵画コンクール展示会	展示室A・B	6	2,097
計		102延べ139	7,065

※表内のグレー部分は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業です。

年間開館日数	利用者（来館者）	月平均
208日	28,930人	2,411人

発行物

令和4年度 年間スケジュール

概要：

施設紹介を兼ねたパンフレットとして、企画展やワークショップなどの情報をコンパクトにまとめています。

仕様：A4変形サイズ、カラー、3つ折り

グラフィックデザイン：

伊藤ヒロコ (Lallasoo Poopo Lab.)



令和4年度 アトリアニュース

概要：

隔月毎に展覧会やイベントの最新情報をお知らせするほか、終了したイベントのレポートも掲載するフリーペーパーです。近隣の文化施設などに配布しています。

仕様：A4、カラー

グラフィックデザイン：古谷悠子



令和4(2022)年度

事業年報 (アニュアルレポート)

概要：

事業を総括した年次報告書。企画展をはじめ、ワークショップ・講座、関連イベントも収録。担当所感をまとめ、開催時の様子を記録写真とともに紹介しています。

仕様：A4、カラー、24ページ

グラフィックデザイン：

株式会社21世紀文化芸術研究室

発行年月:2025年3月



利用案内 / スタッフ

- 開館時間 10:00～18:00
(入館は閉館の30分前まで)
※企画展中は開館時間を延長する場合がございます。
- 観覧料 企画展によって異なります。
- 休館日 月曜日
※祝日の場合はその翌平日
年未年始(12月29日～1月3日)
施設整備および展示入替期間
- アクセス JR川口駅(京浜東北線)
東口から徒歩約8分



川口市立アートギャラリー・アトリア
Annual Report 2022.4 - 2023.3
令和4年(2022)年度 事業年報

発行日 令和7(2025)年3月
発行 川口市立アートギャラリー・アトリア©2023
332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76
TEL 048-253-0222
FAX 048-240-0525
URL <http://www.atlia.jp/>
編集/印刷/製本
株式会社21世紀文化芸術研究室

スタッフ

※2022年度中在籍

桑原幹夫 (館長)
渡邊浩之 (主査/事務)
茂木阿季 (主任/学芸員)

秋田美緒 (主任/学芸員)
柴澤希 (美術専門補助員)
榊原愛美 (美術専門補助員)

お問い合わせ先

施設名：川口市立アートギャラリー・アトリア

所在地：〒332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76

TEL : 048-253-0222

FAX : 048-240-0525

Mail : info@atlia.jp

Web : <https://atlia.jp/>

指定管理事業者

(株)21世紀文化芸術研究室グループ



ATLIA
Kawaguchi Art Gallery